

2024年度東京藝術大学音楽学部

入学試験問題

出題意図等

作曲科（ピアノ新曲）

- ・「出題意図等」とは、出題意図あるいは標準的な解答例のことです。
- ・「出題意図等」についての問い合わせには対応いたしません。

◆様式として、(或る程度) 無調的なものを設定している。これは、入学後最初の課題である学部 1 年次提出作品から想定される書法の必然性という面から、調性的でない楽想による様式の課題を設定したものである。受験生には、こうした入学後の創作の方向性をも或る程度見据えた上での日々の修練を推奨したい。

◆課題の水準としては、無調的響きと、調性的響き(極力、変化音を用いない、白鍵を中心とした響き)が交代しているため、こういった譜面にあまり馴染みのない受験生にとっても読譜上の過度の困難さを回避している。各セクション(フラグメント、番号付けられている)の移り変わりに、休符を置く等、余裕を持って準備、移行できるように設定している。それぞれのセクション(フラグメント)の書法の違いを明確にしていることも、読譜の困難さを軽減する意図である。これはまた、書法の変化に対応すること自体を課題として設定しているものでもある。

◆各セクション(フラグメント)の特徴は、

- ・冒頭 2 オクターヴの両手のユニゾンで、出だしの読譜の負担を軽減。
- ・16 分音符や 32 分音符のアルペジオは、半音階的、協和音的な響き、或いはそれらが交じり合うように設定されている。
- ・和音のセクションについては、基本的に両手のリズムが同一である。
- ・全体の音型として、基本的には両手で取りやすい間隔や音域で選ばれている。

◆上記のような特徴から、読譜(無調的な響きがあるとはいえ)や演奏技術に或る程度の余裕を持たせた上で、作曲実技に直結する、正確なソルフェージュ能力を判定することを意図している。